

大阪・関西万博開催記念 ACN EXPO EKIDEN 2025

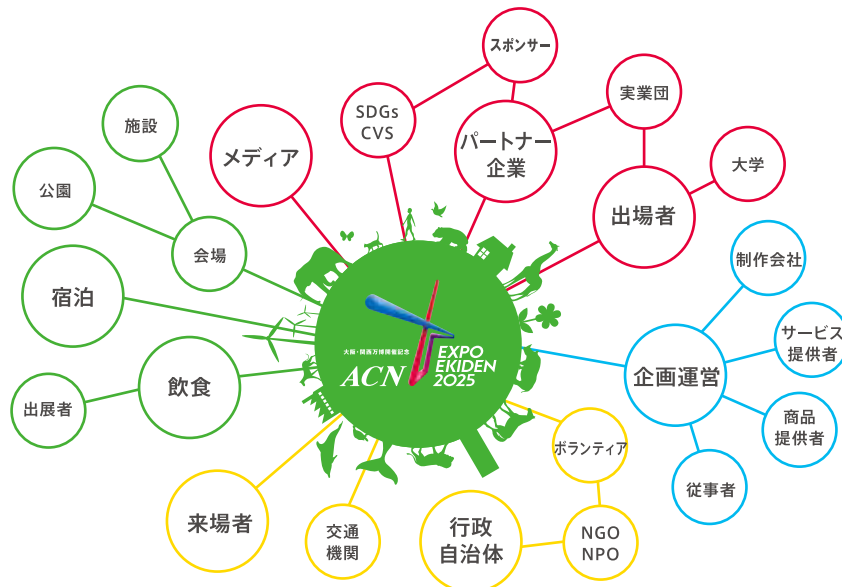
開催大会および関連イベントにおける Sustainability Guidelines

概略版

2025.1.6 Ver.

本ガイドラインの目指す方向性

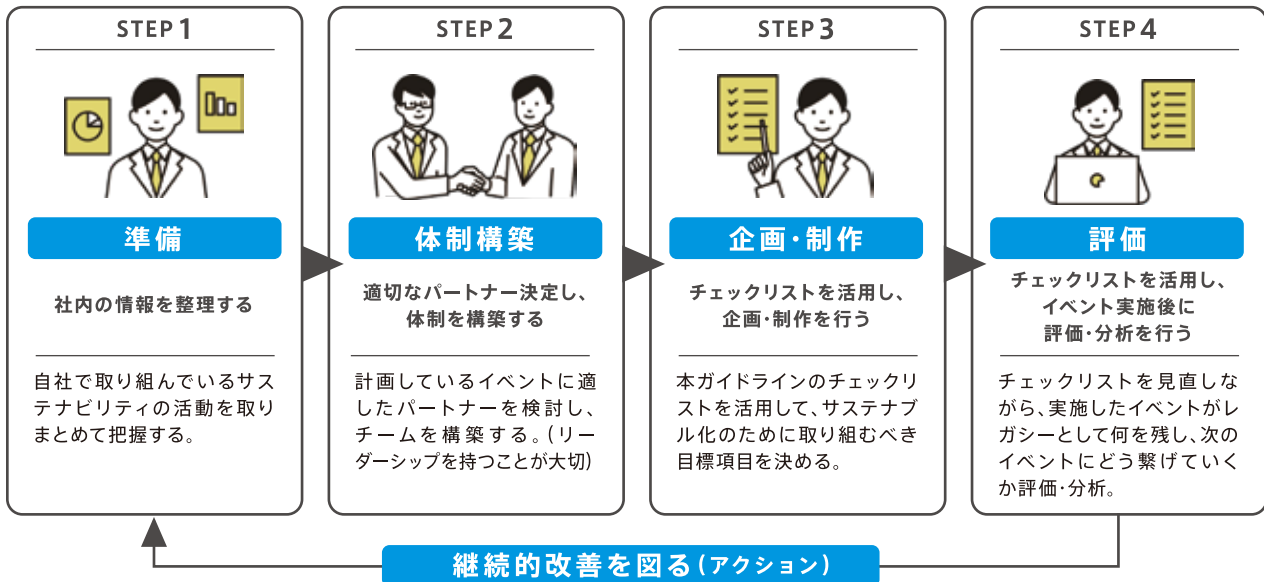
1. イベントという分野から、持続可能な社会に貢献する。
2. 本イベントを機に、国内イベントのサステナブル運営の機運を高める。
3. サステナビリティの領域は幅広く、一度に達成できるものではないため、「できるところから始め、継続的に取り組み、到達度を上げていくもの」という理解を広める。
4. 本イベントを機に、関係各社がサステナビリティへの取組を意識するきっかけにし、メディアを通して社会へのポジティブインパクトを共有する
5. 取組の指針を示すことで、参加者リテラシーに頼らないサステナブルなイベントのインフラを構築する。
6. ステークホルダーの皆様へ本イベント(及びガイドライン)の価値共有を促す。



ACN EXPO EKIDEN 2025を起点としたサステナブルレガシーを『**つなぐ力**』で今後のイベント全体への水平展開を目指します。



イベントを一過性のものとして捉えず、イベントの作り手となる主催者・パートナー・サプライヤー・会場・従事者など、それぞれがサステナビリティについて考え、アクションを繰り返し、継続的改善を図ることが重要になります。最終的にはイベントの作り手だけでなく、参加者の行動変容にも繋げることが、サステナブルイベントのあるべき姿と考えます。



POINT! 現実的な計画を立てる

サステナビリティへの取り組みは「ここまでやればいい」というものではなく、1回のイベントで完結するものでもありません。現実的ではない計画や高すぎる目標はモチベーションの低下にもつながり、行動に移すことも減ってしまいます。結果を急がずに、状況やリソースに応じて着実に実行できるものから始めることが有効です。不完全であっても、目標達成に向けて改善を進めるジャーニーの一部として取り組み、発信することが、透明性や信頼性を高めることにつながります。

POINT! コミュニケーションの重要性

イベントの実現には多くのステークホルダーが密接に関りあって成り立っています。サステナブルなイベントを実施するには1社では実現できません。本ガイドラインは、イベントの作り手となる皆様がサステナビリティについて考え、自分たちの思い描くサステナブルイベントをつくっていくためのコミュニケーションツールとして活用頂けるものになっています。

POINT! イベント実施後に評価・分析

イベントを安全に遂行したから終わりではなく、実施したイベントに対する評価を行います。実現できた内容や、実施できなかったが次回に生かせるアイデアなどを振り返り、サステナブルイベントの知見を蓄積すると共に、本イベントをレガシーとしてアップデートしていくことが大切です。

アスマライ ABC EXPO プロジェクト サステナビリティビジョン

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げる大阪・関西万博を、その行動を加速させる重要な機会と位置付け、「アスマライ ABC EXPO プロジェクト」として未来へ希望をつなぐ多彩なコンテンツを制作・発信していくとともに、各コンテンツにおいて以下の取り組みを推進します。今日より良いアスのために、ミライのために、ABCグループの創り、届ける力をグループ一丸となって発揮し、持続可能な未来へと貢献していきます。

組織内の管理／教育の徹底

ABCグループの注力する取り組み



① 脱炭素の取り組み

- 温室効果ガス削減の徹底
(企画制作、会場、輸送/移動)
- 参加者への呼びかけ
- 宿泊、飲食
- 地域社会連携 など



② 資源の有効利用

- 3R+リニューアブルの推進
- 環境に配慮した素材の使用
- ゴミの分別回収
- 水利用
- 地産地消 など



③ 多様性の尊重

- 多様な人々が楽しめるコンテンツの提供
- アクセシビリティ
- 情報保障
- オペレーション
- LGBTQ+ など



ABCはACN EXPO EKIDEN 2025および関連イベントにおいて、上記取り組みに関するガイドライン策定のうえ、組織内の管理・教育を徹底、ステークホルダーの協力も仰ぎながら実践に努めます。

テーマ	サステナビリティ領域			注力する取り組み	ガイドライン指針	具体的アクション ※調整中	
	環境	社会	経済				
 ① 脱炭素の取り組み	○	○	○	温室効果ガス削減の徹底	制作	イベントの構成要素をサステナブルな視点で設計	・リモート会議推進
	○				会場	サステナビリティに配慮された会場を選択	・カーボンオフセット ・スマート電源利用 ・空調機の適正温度管理
	○				輸送	輸送時の環境負荷を低減し、温室効果ガスの削減	・エコ燃料発電機などの活用 ・監督バスのEV車両活用 ・エコ燃料列車車両活用
	○				移動	移動時の環境負荷を低減し、温室効果ガスの削減	・公共交通機関の利用推奨
	○	○	○	参加者への呼びかけ	将来的な脱炭素社会に繋がる啓発活動	・マイボトル運動 ・公共交通機関の利用推奨	
	○			宿泊	宿泊に伴う環境負荷を低減し、温室効果ガスの削減		
	○			飲食	飲食食の提供にサステナビリティの配慮	・フードロス対策 ・地産地消メニュー ・カトラリーの削減	
		○	○	地域社会連携	開催地へのレガシーとなる取り組みを実施		
 ② 資源の有効活用	○			3R+リニューアブルの推進	Reduce, Reuse, Recycle, Renewableを意識した運営	・リース備品の有効活用 ・会場装飾にリサイクル資源/廃材を使用	
	○			環境に配慮した素材の使用	環境に優しい素材を積極的に採用し、代替素材を活用	・廃棄物になるノベルティ削減 ・沿道テープ(入場規制用)/再生材使用	
	○			ゴミの分別回収	ゴミの分別回収を徹底し、リサイクル率の向上	・資源ステーション設置 ・排出ゴミの分別回収⇒リサイクル ・ゴミ拾い(プロギング・再生材99%ゴミ袋使用)	
	○			水利用	将来の世代も水資源を豊かに利用できるよう、水資源を保全		
 ③ 多様性の尊重	○	○	○	多様な人々が楽しめるコンテンツの提供	多様な人々が安心して楽しめる企画で、インクルーシブな環境を創出	・老若男女が活躍するボランティア ・併催イベント(アスマライ)	
		○		アクセシビリティ	来場者の特性を理解して、みんなが快適に過ごせるイベント空間	・ユニバーサルサインデザイン	
		○		情報保障	快適にイベントを体験できるように、来場者の特性を理解した情報提供	・スタッフ、ボランティアへの教育	
		○		オペレーション	来場者が快適で安全に過ごせるための運営計画	・スタッフ、ボランティアへの教育	
		○		LGBTQ+	否定せず、傷つけず、いないことにしない。	・スタッフ、ボランティアへの教育	